

かしま灘楽習塾

だより



〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4631-1
鹿嶋市まちづくり市民センター内
TEL 0299 (85) 2601・FAX 0299 (85) 2602
E-mail kashimanada_info@yahoo.co.jp
URL http://www.geocities.jp/kashimanada_info

号外!



市報「かしま」まちかど情報特派員 石黒圭吾 特派員の取材記事です。

本日の、市報「かしま」‘まちの話題’に、かしま灘楽習塾が掲載されておりますが、取材して市報に載せきれなかった記事をここでご紹介します。



ふれあいの場・楽しみの場・学びの場 『かしま灘楽習塾』

皆さんも たくさんの講座の塾生になってみませんか !



写真は「絵手紙教室」で学ぶ岩淵規佐子さん（82歳 武井）

平成 18 年 10 月、鹿嶋市まちづくりセンターに生涯学習塾「かしま灘楽習塾」が開講しました。「遊び心」をもって「子供から大人まで楽しく学ぶ」をテーマに、“教えたい人と学びたい人の場を提供する”市民の「楽習塾」です。

私も第 2 期塾生として 1 年間、学ばせていただきましたが、気が付いたらこの春の「塾生作品展覧会」で作品を発表し、自分の成長に自信の持てた 1 年でした。

全国にも例の少ないこの、市民自らの手で市民のために創り上げる『生涯学習の場』をもっと知りたいと 10 日間

にわたり各講座に参加し、講師（市民）、塾生と触れ合いながら取材をしました。生涯学習と堅苦しい意気込みを想像していた私は取材の中で、「温かい心の触れ合い、教える喜び、学ぶ喜び」が塾生と講師の中にあることを知りました。

塾長の西岡さんにおうかがいしました。

「身につけている技術を役立てたい 人に触れて自己も向上したい」
『これが市民講師の思いです』



楽習塾で勉強している私達に「こんにちは！頑張っていますね」と、かしま灘楽習塾塾長、西岡邦彦氏（以下塾長に略）はいつも温かい声を掛けて下さいます。塾長 西岡邦彦さん

Q かしま灘楽習塾の開講までには大変な御苦労があったのではありませんか。

塾長 皆さんの御努力、それに多くの御協力がありましたので開講できました。

この楽習塾は企画段階から1年半と極めて短期間で開講に至りましたが、この期間においては茨城大学地域総合研究所鹿嶋研究センターを核とする準備会の活動、それにボランティア事務局員の活動、市民、行政の応援があったからです。

Q 拠点となる「まちづくり市民センター」は素晴らしい学習設備が整っていますが・・・

塾長 この「鹿嶋市まちづくり市民センター」は平成15年、閉校になった「旧清真女子短期大学」の施設をそっくり引き継いだ素晴らしい教室等を使わせていただいています。その点では学習の環境にも恵まれました。

Q 第1期の開講では50講座、塾生600名が集う楽習塾が誕生しましたが、その源は何だとお考えですか。

塾長 「市民大学開設準備会」の地道な基礎調査ですね。それに核となる「かしま市民講師」の意識調査を優先課題として把握しました。やはり、市民が一体となって自分達の「学習の場を」作る「高まる意識」だと思えます。それに無償の事務局員応募が定員以上集まりましたが、有り難い事です。

Q 今後の楽習塾にどのような思いをお持ちですか。

塾長 鹿嶋市民65,212人、それに移住者が今後増えますが、皆さんに熱中できるものがが必要です。

【学ぶ事が楽しく、教える事に楽しみを感じる】【顔と顔が見え、気持の伝わる触れあいの場】 『こんな学びの場』でありたいです。

かしま灘楽習塾開講までの経緯

(茨城大学地域総合研究所年報第40号 参照)

- 平成17年4月 鹿嶋市民センターより鹿嶋研究センターに「市民大学開設準備会」検討依頼
- 平成17年5月～9月 基礎調査開始
- 平成17年10月～12月 開設準備
- 平成18年1月～3月 開設準備 (2月講師募集)
- 平成18年4月～6月 開講準備
- 平成18年4月1日 開設式
- 平成18年7月～8月 塾生募集
- 平成18年10月～12月 開講
- 平成18年10月7日 かしま灘楽習塾 開講式





暖かいリビングに居るような錯覚……でした



写真は、おしゃべりの弾む明るい「ハワイアンキルト教室」

暖かい午後の日差しが差し込む教室から明るい笑い声が聞こえてきます。

何処かのお家のリビングルームにいるような錯覚でした。「この間、ハワイでね……ネ」「ねえ！あそこのレストランのランチが美味しいの知ってます？」……。

でも、アップリケをキルテングしている指先はしっかりと正確に一針、ひと針動いているんです。私が「ハワイアンキルトって何ですか？」と声を出すと答えがこだまのように返ってきます。笑顔で見守っていた狩野正子講師は「この

教室は温かさが取り得なんです。皆さんが楽しく学んでいただければと思っています」と笑顔で質問の出た塾生の指先に走り寄りました。

2年前、埼玉県から御夫婦で鹿嶋に移住した関根房江さん（荒井）は「もう、教室は1年半になります。皆さんとこうしておしゃべりしながらの教室はとっても楽しいですし、頭も気持ち若返りますね」と見上げた笑顔がとても素敵でした。思えば私も子供の頃、母のミシンを踏んで「弁当袋」を作った事を思い出しました。

後ろの席で黙々と針を刺していた岩井節子さん（77歳 武井）は「眼が悪くなりましたがこれだけは楽しくて…」と控えめな姿が輝いていました。



「色々な写真を見る事 自分の写真を多くの人に見てもらおう勇氣です」



取材に訪れた教室で「刑事コロンボ」を思わせる風貌の森秀暢講師（プロ写真家）から厳しい指導がひとりの塾生に向けられていました。そこには、中国桂林の撮影を皮切りに海外撮影スタート、アラスカスウェーデン、ノルウェーを駆けた写真家が情熱を持って塾生に向き合っていました。

「いい作品、心を打つ作品を撮るには率先して出掛け、他人の色々な写真を見る事が大事です。もっと大事な事は自分の写真を大勢の人に見てもらおう勇氣が大切です」と。

「妥協を許さない常に感性を磨き上げてい



写真は 心と心の触れあい フォートアートデジタル写真教室

る」プロ写真家に全技術を教えていただく塾生はなんと幸運な事であると思いました。「屋内で花を撮るテクニック」のテーマでの学習でしたが、後半からは塾生全員の写真を 机いっぱい に広げ、塾生同士で撮影技術を交流していました。

途中、講座の見学に見えた小嶋敏子さん（宮中）は「カメラは買いましたが、上手に写真が撮れないんです」と一言、小声で話してくれました。女性塾生の市川佐保さんと意気投合し、「今度、楽習塾に入ります。」と約束し笑顔で教室を後にしました。 塾が始まったら一流写真家の指導を受けた彼女の作品を見に来たいと思っています。



「私ね！曼珠沙華が書きたくて
絵手紙を始めたのです」……



「絵手紙教室」の一番前の席で白髪のご婦人が懸命に筆を運んでいました。「せんせ〜い！ここの色はどうしたらいいのでしょうか？」と大きな声で先生（齋藤富子講師）を呼んでいます。「元気ですね。お齡つになられましたか？」の問いかけに少女のような、はにかんだ笑顔が返ってきます。20年前、ご主人（90歳）の仕事の都合で鹿嶋に越してきた岩淵規佐子さん（82歳 武井）は当時、書道が楽しみで一生懸命書いていましたが、心の中に『赤い曼珠沙華』がどうしても自分の手で書きたかったのです。「そしたらネ、偶然お隣に先生が越してこられたのです」それから「先生、私ね！どうしても赤い曼珠沙華が書きたいのです・・・」こんな事から、岩淵さん82歳の絵手紙学習挑戦が始まったようです。

「下手でいい、下手が一番」で集まった「絵手紙教室」17名は取材時、「楽習塾生作品展」準備も終わりほっとしていました。「作品を発表し、一年間の成長に気づいていたのは塾生皆さんではないでしょうか」と齋藤講師の嬉しい顔が印象的でした。何歳（いくつ）になっても「学ぼう」のこの逞しい気持ちが、同じ年代になった私にあるだろうか。そんな想いで教室を出ました。

取材を終えて思うこと

石黒圭吾

「講師が教えて、塾生が学ぶ」こんな方程式が成り立たない、かしま灘楽習塾の取材でした。市民が講師で市民が塾生で「学ぶことが楽しく、教えることに楽しみを感じる“知の道場”でした。

【夢フィードル交流（ふれあい）のまちかしま】65,212人の鹿嶋市スローガンにぴったりの学び場でした。中でも印象に残った塾生は90歳に手の届くご婦人が自分の強い意思と目標で生涯学習を貫く姿は自分の、これから進む私の高齢への指針としたいです。

ある講師は「私の技術を一人でも多く市民に分けたいです。又、教える事により人との触れあいを通じ自分も成長できます」と喜びを隠し切れない様子でした。

ある講師に「何をしてあげたいですか」問いましたら、「ゆったりとした気持で学べる教室にしたいです。そして、四季を感じる感性の豊かな人になってほしいですネ」

市民自らの手で市民のために創り上げる「かしま灘楽習塾」の開講に尽力をつくされた先人に敬意を表したい気持でいっばいで取材を終えました。

